

はじめまして。スタッフ全員が「移住女子」の会社、(株)ご近所 です。

Mission

株式会社ご近所は、「デザイン力で、世界をしあわせにする」ことをミッションに掲げ、2012年に丹波市春日町に設立されました。わたしたちが目指すしあわせな社会とは、人と人、人と環境が身近な関係がつながれ、次世代に受け継がれる“ご近所さん”のある社会です。社名の「ご近所」にその思いを込めて、まずは地域の近所さんの存在になるべく、地域の中に溶け込んで日々活動をしています。スタッフは全員、都市部からの移住者で、デザイナー、PRプランナー、プログラマー、ライタースキルを持った7名の女性が在籍。世の中のとりわけ都市で暮らす人々の価値観をシフトすることが、しあわせな社会づくりの第一歩と考えて、都市で暮らす人々の思考やマーケットを知る、元・都市暮らしの移住女子が都市への情報発信を通じて、世の中を変える活動を行っています。

Action

- 地域ブランドプロデュース:地酒のプロモーション、丹波鹿肉のプロモーションなど
- コミュニケーションデザイン:市内外の企業・団体などのwebサイトやパンフレットなどの企画・制作
- 地域活性化イベントプロデュース:市内で毎月開催の「丹波ハビネスマーケット」の企画・運営など
- セミナー&カフェの開催:クリエイティブセミナー、jimdo cafe丹波などの企画・運営
- 体験型ツーリズム:移住・IT関連の視察ツアー、自然体験ツアーなどの企画・受け入れ
- 戦略的PR:市内外の企業・行政などのPR代行(丹波市移住定住促進PRなど)

Staff



伊藤由起
大阪一丹波
Webデザイナー
移住10年目



田代春佳
東京一丹波
グラフィックデザイナー
移住3年目



林田牧子
京都一丹波
プログラマー。移住1年半、フリーランスとして、ご近所などで活動中。



恒松智子
大阪一丹波
PRプランナー
移住1年半目



中川知秋
宝塚一丹波
グラフィックデザイナー
移住2年目



湯山加奈子
静岡一丹波
プログラマー。移住3年目だが、丹波や東京など多拠点で活動中。



済木麻子
奈良一丹波
ライター。移住10年目。
ご近所をはじめ地域の
広報紙などで活動中。

…&コワーキングスペースを利用するテレワーカー

(株)ご近所では、オフィスをコワーキングスペースとして開放しています。スタッフと机をならべ、市内外のクリエイターなどが共に働いています。

株式会社ご近所 代表取締役 小橋昭彦

URL <http://gokinjo.sc/>

〒669-4265 兵庫県丹波市春日町中山192-1 TEL0795-78-9603 / FAX 0795-78-9604

資料に関する
問い合わせ先

移住者の目線で地域を元気にする。本ニュースレターは、地域発の情報を掘り起こし都市部へ届けるべくスタッフ全員が移住女子であるPR・デザイン会社の(株)ご近所が発行しています。ご近所スタッフがお会いした方や、執筆されている記事を拝見し、移住最新情報をお届けしたいなと思った記者の方に送付しています。

株式会社ご近所 〒669-4265 兵庫県丹波市春日町中山192-1

広報担当 担当:恒松智子 【T】0795-78-9603 【F】0795-78-9603 【M】 tsunematsu@gokinjo.sc

丹波市発 移住者だけの編集部による全国地方創生最新情報



ご近所 NewsLetter vol.4



地元木材で建てられた家屋に、スタッフ、テレワーカーがともに働く環境



地酒を広めるプロモーション、丹波暮らしを伝える冊子プロデュース等に携わる。



多様性の時代のライフワークバランス -地域社会に活躍の場をもつ移住女子たち-

こんにちは、「ご近所」の移住女子編集部です。

今回のテーマは「女性の活躍」。2016年4月、「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律(女性活躍推進法)」が施行され、これから一層、女性の働き方やチャレンジに注目が集まります。たしかに、仕事のやりがいや、ステップアップ、自己実現は大切ですが、『活躍って、職場だけじゃないやんなあ』というのが移住女子編集部のホンネです。

ライフスタイルも働き方も多様化している今の世の中で、企業だけが女性の活躍に尽力するのは活躍の機会に限られるし、女性側も職場以外で活躍できる場をもつ意識改革が必要じゃない? そう思うのは、丹波で職場以外の活動の場をもっているからかもしれませんが。大阪で働いていた時は職場しか活動の場がなくて、楽しかったけど仕事に偏ったアンバランスな生活を送っていたのですから。

移住前に「田舎だからってのんびりできないからね」と念を押されてやってきた丹波。わたしのみならず、丹波に移住したUターンの女性たちは、活躍の場を職場だけでなく地域内に複数もち、職場とソーシャルコミュニティでの活動を両立することで忙しくも豊かな人生を送っています。

地域社会の中で所属する場所を複数もち、そしてそれぞれの中での役割を担うことが、バランスのとれた人生につながる、ワークライフバランスの新しいかたち「仕事と地域活動の両立」。その事例を丹波市から紹介します。同じような現象は、元気な地方の各地で起こっているのではないのでしょうか。(編集部 つね)

株式会社ご近所

CASE
丹波市

地域に活動の場を2つ以上もっている、移住者たちの事例

所属するコミュニティが多ければ活躍できる場も増える。丹波市には、職場以外の活躍の場が複数あり、移住者を中心に地域住民らが大勢活躍しています。一般的に地域コミュニティとしてイメージするのは、町内会や消防団、青年団、子ども園・小学校に通う子供の母親グループなど。丹波市にもそういったコミュニティはありますが、新しく生まれているのが、プロジェクトベースのコミュニティ。地域活性を目的とした、空き家活用、マーケット運営、地域Cafe、イベントなど様々な形態があり、月一回、半年ごと、年一回、通年など継続して取り組まれることで、集まったメンバーやその場自体が一つのコミュニティと化す現象が起っています。

既存の地域コミュニティが、住んでいる地域である程度義務的に加入するのに対し、こちらは、プロジェクトベースというだけあって参加は有志。所属(居住地区・職場など)は様々で、ヤル気とスキル、楽しみたいという意識が集まったメンバーで構成されています。また、複数のプロジェクトで活動する人が多く、プロジェクトメンバーが関わる別の活動に参加したり応援したりといったコミュニティ間のつながりもあります。市内に沢山のプロジェクトがあり、ゆるくつながり合う関係から、活動の様子や活躍している人のことが周囲に伝わります。

参加者にとってプロジェクトベースの取り組みが与えてくれる満足感は、スキルを活かしたりチャレンジしたりできること、年齢や職業を越えた「〇〇プロジェクトの仲間」という意識がもてて友人・職場・家庭とはまた違う人脈を築けること、活動している自分自身のことが周りに伝わっていくことです。職場と家庭だけではなく、地域社会にも自分の居場所を複数もって活躍できることが、豊かな人生を送るワークライフバランスだということを、丹波市で起きている現象が教えてくれています。

丹波市内で活躍する女性がいるコミュニティ

●マーケット出店



丹波ハビネスマーケット

毎月第2土曜に開催する定期市。2012年に始まり、市内外から出店者約60店、来場者約2000名が集まる。地域活性と、月1出店からチャレンジして欲しいという意図がある。ママさんのハンドメイド雑貨や料理好き主婦の地元野菜スイーツなどチャレンジ出店も多い。ハビネスを機に開業した女性も。

●テレワーク



株式会社ご近所

スタッフ全員が都市部からの移住者というPR・デザイン会社。地域の人、クリエイター、視察関係者など、人が集まる社風を活かし、オフィスをコワーキングスペースとして開放。オフィスをもたないフリーランスなどに人と繋がる「仕事場」などを提供している。都市部からのお試しテレワーク受け入れ中。

●仲間集め



パースディ

仲間を集めるプレゼンの場。叶えたい夢や挑戦したいことのあるプレゼンター5人が登壇。20~30人の聴衆が共感するプレゼンに対してアイデアやスキル、有益な情報などを提供するワークショップをおこなう。5月開催では、パン職人の移住女性がパン屋開業の夢をプレゼン仲間を集めた。

●空き家活用



佐治倶楽部

丹波市青垣町佐治地域の空き家の活用を考えるサークル。地域の空き家3軒を改修し、コミュニティスペースや、チャレンジショップ、チャレンジカフェとして活用を促す。その活用の一つとして月2回だけオープンするランチカフェでは、市内在住の女性が地域の食材で料理を提供している。

移住女子 File.1

中川知秋さん デザイナー



2014年3月に宝塚市から丹波市に移住。デザインの方で地域課題の解決に取り組みたく市内の地域活性に携わるPR・デザイン会社に転職し、グラフィックデザイナーとして活動。職場外では、地域の農業法人「稲畑どろんこ会」で親世代以上の方々の活動に関わり、また、100人でタスキをつなぎ丹波市内を走る100人駅伝の実行委員メンバーとしても2年目を迎える。

若手のアイデア「どろんこ運動会」を稲畑どろんこ会につなぎコラボレーションを実現させる。2回目のどろんこ運動会が7月2日(土)に開催される。



昨年のどろんこ運動会の様子。稲畑地域に若者が大勢集まった一日。

関わるコミュニティ



移住女子 File.2

恒松智子さん PRプランナー



2014年9月に大阪市から丹波市に移住。ローカルからの情報発信に取り組みたく、市内の地域活性に携わるPR・デザイン会社に転職しPRプランナーとして活動。職場外でもPRスキルを活かした活動として、衣川會館の運営メンバー、都市部暮らしの男女をターゲットにした森遊び企画「森ごはん」、「森ハンモックカフェ」の広報を担当。また、丹波の地酒を広める活動を公私に渡って取り組むなど、スキルや興味関心を活かした活動を職場とコミュニティにまたがって取り組んでいる。森ハンモックカフェは7/3と8/28、森ごはんは9月下旬に開催予定。



「森ごはん」は、農家・シェフ・パスタ・ワインバーオーナーなど多彩なメンバーが揃う

関わるコミュニティ



移住女子 File.3

関美絵子さん たまご農家



2014年4月に丹波市に移住。大阪で八百屋に勤めていた時、都市部の消費地マーケットが求めるものを生産者側に立ってつくっていきたくと考え、丹波市の卵農家へ転職。鶏のお世話のほか、自社卵を使ったスイーツや料理をハビネスマーケットや佐治倶楽部が運営する月一BARのメニューとして提供している。職場外では、空き家活用サークル佐治倶楽部が改修した空き家「衣川邸」の活用運営メンバーとして関わる。卵農家としての取り組みを軸に、マーケットやカフェ、BARなど様々な地域コミュニティに属して活動をしている。



月1オープンのBAR Saji Studioで1年前からメンバーに。地域の常連さんとも馴染んでいる。

関わるコミュニティ

